



《 消化器 MRI 検査について 》

M R I 検 査 の 原 理

「MRI」とは、「Magnetic Resonance Imaging」の略で「磁気共鳴画像」と訳されます。磁気と電波を利用して、人の体の中を様々な角度から撮影する方法です。

MRI検査は、磁石が埋め込まれた大きなトンネル状の装置の中で行います。装置の中は高磁場になっていて、体を高磁場の中に入れると、体内の水素原子核が同じ方向を向き運動を始めます。そこに電波を加えることで、水素原子核に共鳴現象を起こさせ、体内から跳ね返ってくる情報をコンピューターで解析し画像を作成します。CTとよく似ていますが、CT検査では、体を輪切りにした横断面が主体です。また、CT検査はX線を使うため被曝します。MRI検査では、縦、横、斜め、あらゆる方向から撮影することができます。X線を使わないので、被曝の心配もありません。

当院はMRI装置を設置していませんが、提携する病院で検査を受けることができますので、ご利用ください。



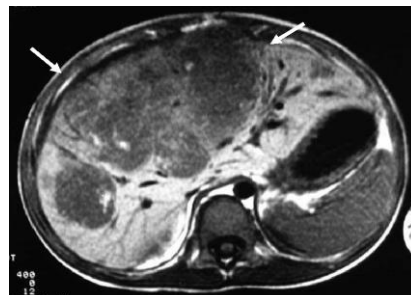
MRI 装置

M R I 検 査 で 分 かる こ と

MRI検査は、特に脳や血管、脊椎、膝、肩、子宮、卵巣、前立腺などを得意とする検査です。また、様々な病気の早期発見、診断に有効とされています。ここでは、消化器（肝臓、胆のう、膵臓）に関するMRI検査について説明します。

●肝臓

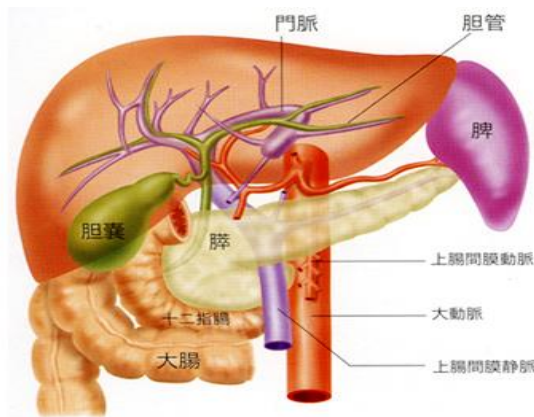
肝臓は体内最大の臓器であり、主に代謝、解毒作用、胆汁の生成・分泌などの機能があります。沈黙の臓器と呼ばれ、自覚症状に乏しいので、異常に気付いたときには、病気はかなり進んでいることがあります。例えば、健康診断の腹部超音波検査で肝臓に腫瘍が見つかった場合、CTやMRIで精密な検査を行うことがあります。腫瘍のなかで最も心配なのは、がんです。腫瘍の質を診断して、良性で放っておいて良いのか、悪性で手術をしなければならないのかなどを判断します。また、がんの広がりや個数を把握するためにも有用です。



肝臓癌のMRI画像

●胆のう

胆のうは消化に必要な胆汁を蓄え、濃縮する袋です。胆管（胆道）によって、肝臓と十二指腸につながっています。胆汁は十二指腸で食物と混ざり、消化を助けます。胆のうのがんは、胆管がん（肝内胆管がん、肝外胆管がん）、胆のうがん、乳頭部がんに分類され、これらを合わせて胆道がんといえます。早期ではほとんど症状が出現しないため、早期発見が難しいがんの一つといわれていて、日本人は諸外国に比べて、罹患率が高い傾向にあります。胆道がんに対して、MRI検査は非常に有効な検査の一つです。



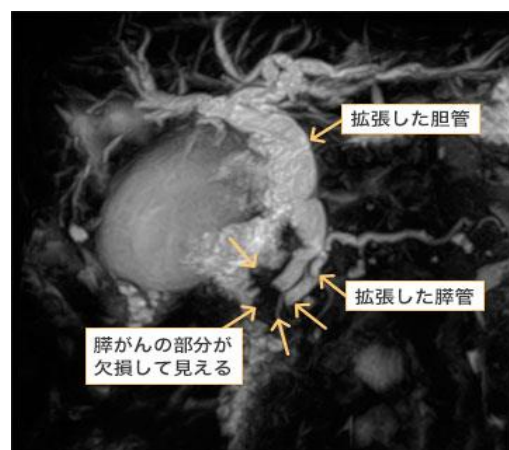
胆のう

●膵臓

膵臓は消化液である膵液をつくり十二指腸へ分泌します。体の真ん中にあり、多くの臓器に囲まれています。そのため、他の臓器や腸のガスが邪魔をして、超音波検査では観察しにくい場合もあります。一方で、MRI検査では、胆汁や膵液などの液体部分だけを強調した画像を作り出すMRCP検査（磁気共鳴胆管膵管造影）が行えます。この検査では、胆管や膵管を同時に観察することができ、胆管がんや膵癌、慢性膵炎などが分かります。

内視鏡を用いて行う逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）と比較し、MRI検査では内視鏡を使用せず、造影剤を使う必要がないので、非侵襲的で苦痛がなく行える検査です。

膵臓や胆管の病気は、症状がないうちに見つけないと治療が難しい病気です。このため、早期発見が大切です。しかし、早期では自覚症状が少ないため、発見が遅れることも珍しくありません。このMRCP検査によって、早期発見の可能性が高まります。



MRCP画像

M R I 検査の注意点

MRI検査やMRCP検査では、装置が強い磁気を帯びていますので、金属を外さなくてはなりません。そのため、体内に心臓ペースメーカーなどを入れている方は、検査を受けられない場合があります。また、検査時間が30分前後と長く、狭い装置の中へ入りますので、いわゆる閉所恐怖症の方には不向きです。

検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。
(当院ではMRI検査は予約できませんので、ご了承願います。)



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp